

国語 第5学年 たがいの立場を明確にして、話し合おう 検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し: 中心はA(1)オ「互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりすること」。話し合う前の準備としてA(1)アを合わせて評価し、材料の整理に(2)イを使う。

指摘 2: 評価規準は何か。どこで見るのか。

返し: 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第3時の図、思考・判断・表現①は第2～3時の提案カード、②は本時の観察と話し合いメモ、第6時の報告、態度①は第1時の観察と第6時の振り返りで見える。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: A(2)ウ「それぞれの立場から考えを伝えるなどして話し合う活動」。一人一人が学校生活をよくする案を持ち、それぞれの立場から考えを伝えてグループの考えをまとめる。

指摘 4: 「立場や意図を明確に」は、何を見れば評価できるのか。

返し: 立場は、案と理由と根拠の材料をそろえて言えているかで見える。意図は、その案で何を大事にしたいかを自分で言えるか、相手に質問して確かめているかで見える。どちらもA(1)オの「互いの立場や意図を明確にしながら」に当たる。

指摘 5: 「計画的に話し合う」とは、どういうことか。

返し: 話し合う前に、目的と進め方を子どもが決めておき、それに沿って進めること。本単元では第4時に計画表を作り、本時はその表に印を付けながら進める。話がそれでも計画に戻れることが、A(1)オの「計画的に」の姿である。

指摘 6: 結論が一つにまとまらなくてもよいのか。

返し: A(1)オは「考えを広げたりまとめたりすること」としている。まとまらなかったグループも、意図を確かめて考えが広がったこと、決まったことと決まっていないことを分けて報告できたことを評価する。まとめ方は、一つを選ぶだけでなく、合わせる・条件を付ける・順番を付けるなどから選ばせる。

指摘 7: 学校生活の課題を話題にすると、特定の子への批判にならないか。

返し: 第1時の話題選びで、特定の子や学級を責める話題は避け、仕組みや取り組みを変える話題にする。意見と人を分けて話す約束を毎時確かめる。教材の観点としては第3の3(2)ウ「公正かつ」判断する能力や態度を育てることに当たる。

指摘 8: 個に応じた指導はどうするのか。

返し: 発言しにくい子には、提案カードを読み上げてから話してよいことにする。材料を集めにくい子には、学級で取ったアンケートの結果を共通の材料として使わせる。早くまとまったグループには、両方の意図を生かした案を考えさせる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 9: ICTは使わないのか。

返し: 二つの使い方を考えている。アンケートを端末で作って材料を集めること、案と意図の図を共有の画面で作って、全体で聞き比べる時に映すこと。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ、紙のアンケートと模造紙の図で同じことができる。

指摘 10: 教科書の話し合いの例やコラムどおりでいいのか。

返し: 教科書の例とコラムは、立場の示し方と、意見が対立した時の進め方を確かめる材料として使う。話題は学級の子が実際に選んだ学校生活の課題にするので、例をそのまま演じさせることはしない。教材は第3の3(1)の「言語活動が十分行われるよう教材を選定する」に沿う。

指摘 11：6時間では足りない。

返し：6時間は光村図書出版の年間指導計画例の配当に合わせた。材料集めに時間がかかる時は、アンケートを学級で一つにまとめて取るか、朝の時間などに回す。学習指導要領は第3の1(4)で、第5学年及び第6学年の話すこと・聞くことに年間25単位時間程度を配当としているので、年間の中で時数を確かめて決める。

指摘 12：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第5学年及び第6学年〕2内容の〔知識及び技能〕(2)イ、〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア・オと(2)ウ、関連してA(1)イ、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

